

教育委員会

コラム Vol.1

教育長室の窓から

本は生きる力と知恵を育てる宝庫

ある日の春休みの午後「こんにちは」と元気な挨拶が、文化センター図書室に響きました。図書室のぞいてみると、一人の中学生が熱心に本を探している素敵な光景を目にしました。

本町は、県の「1日20分読書」運動をうけ、各学校では、朝の読書、読み聞かせ、読書まつりなど特色ある取り組みを行っています。保育園やこども園でも、絵本など読み聞かせ、手作り絵本の製作など工夫をこらした取り組みを行っています。

また、町PTA連絡協議会では、「やぶさめ（きもつき80・2・30）運動」の一環として、30分間テレビを消しての読書や親子の対話を、町内の全家庭で勧めています。

さらに、町では、大隅広域図書館ネットワークに加入しており、町内に在住、通勤、通学していれば、共通の図書カードを利用した本の貸出、返却、蔵書検索・予約など、2市5町、どの図書館（室）でも利用できます。

読書には、「自分で考え、課題解決をする力の土台づくり」「思いやりや優しさ、強くたくましい心など、豊かな心を育む」という大きな役割があります。

人生の中で、本に触れる大切な時期が、幼児期、小・中学校の時期です。子ども一人一人の生活の中に読書が位置づけられ、豊かな人生の一助となるよう、肝付町の教育では、読書の充実を図っております。



教育長の

ちょっといい話

夢を目指して…



肝付町立高山准看護学校に57期生10名が入学してきました。迎えるのは、56期生8名です。実は、今年の新入生が56年の歴史ある准看護学校最後の新生になります。夢に向かっての第一歩を踏み出しました。

ところで、過日、伝統ある新生歓迎集会が行われました。毎年、企画や運営は上級生である2年生が考えるそうで、今年バドミントンでした。年齢も男女も様々、そこに、私や教職員が入り、好プレイあり珍プレイありのひと時、生徒たちの目の輝き、表情豊かな反応が感じられた時間は、まさに至福の時間でした。

高山准看護学校は、准看護師になる人材を養成する修業年限が2年の学校です。准看護師として必要な知識・技術の習得はもちろんですが、人間性豊かな他者を思いやる愛の精神、社会的責務を身に着ける場です。この生徒たちが、准看護師として地域の医療・福祉に貢献する日が待ち遠しく感じた一日でした。